

和服に関する研究 (第1報)

既製和服に対する消費者意識と実態

古川 智恵子・豊田 幸子

A Study on Japanese Clothes (I)

Consumers' Consciousness and Behavior
for Ready-made Japanese Clothes

Chieko FURUKAWA and Sachiko TOYODA

緒 言

今日、日本の衣生活では洋服が大部分を占め、日常着としての和服の着用は非常に少なくなっている。洋服の中でも既製の浸透は目ざましく、サイズ、デザイン、縫製、素材は質・量共に向上し、今や性別、年齢を問わず既製を着用して日常生活を営んでいる。一方、日本の民族服としての和服に対する関心度は決して衰えているわけではなく、洋装が圧倒的な現在でさえ、冠婚葬祭、会合等の改まった行事には和服を着用する人が多く見られる現状である。従来、和服は日本の各家庭で自家製品として使用されるか、特定の仕立屋に依頼して注文服として作られていた。しかし、洋装の浸透とともに衣生活に対する意識変化から和裁を習得する人が少なくなり、簡単な浴衣や単衣類は別として、一般には外注するか既製の和服を購入するようになってきた。このような現状を踏まえて、本報はこれからの知識社会の一端を形成してゆく女子大生の中から、特に被服を専攻する本学学生、およびその母親を通じて、衣生活を把握し、そこから、これからの和服が生活の中でどの様に位置づけられていくべきか、また既製洋服に対する既製和服の現状と問題点等の考察を試み、今後の衣生活及び和裁指導上における参考資料を得ることを目的とした。

方 法

1. 調査対象

短大家政科被服コース学生 200 名およびその家庭と近隣地域の主婦専業者 450 名の計 650 名である。

2. 調査場所

愛知、岐阜、三重を主とする東海三県下と静岡、長野等の地域である。

3. 調査時期

1977年、12月～1978年、7月

4. 調査用紙

質問紙法によりアンケート用紙を作成し、学生および学生を通じて母姉及びその近隣の主婦専業者に配布、回収した。

5. 調査内容

調査内容の要約は次のとおりである。

- (1) 和服・洋服の所持，製作状況に関して
- (2) 既製和服の購入，選択状況に関して
- (3) 既製和服に対する意識に関して
- (4) 将来の衣生活設計に関して

以上について，多項目選択法及び自由書込み法をもって記入させた。

結果および考察

アンケート配布数は 650 枚である。内訳は表 1 に示すとおりで，回収率は 94% である。

表 1 調査地域及び人数

地域	年齢層 数	主				婦		学 生		大 計	
		若 年		中 年		高 年		数	%	数	%
		数	%	数	%	数	%				
愛 知		29	4.7	97	15.9	54	8.9	63	10.4	243	39.9
三 重		21	3.5	70	11.5	39	6.4	46	7.6	176	28.9
岐 阜		9	1.5	30	4.9	17	2.8	20	3.2	76	12.5
そ の 他 (静岡・長野)		14	2.3	45	7.4	25	4.1	29	4.8	113	18.6
計		73	12.0	242	39.8	135	22.2	158	26.0	608	100.0

※ 若年：22～35才，中年：36～50才，高年：51才以上。

(1) 和服・洋服の所持および製作状況

1) 和・洋服の所持割合

学生および主婦層が所持する衣服の中で洋服と和服の割合を調べた結果を図 1 に示す。学生では洋服が 83%，和服 17% と洋服が圧倒的に多い。主婦では洋服 55%，和服 45% と和服の所持数は約半数近くを占めている。

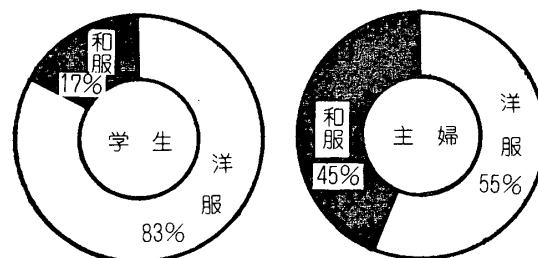


図 1 和・洋服の所持割合

2) 所持数，和・洋服の製作別比較

次に和・洋の所持服がどのようにして製作されたかの調査結果を図 2 に示す。洋服では学生，主婦共に既製服が最も多く，特に学生では 80% の利用率で，注文服はほとんどみられず，流行を追い手軽さ，外見の良さを求める若者としては当然の結果であろう。これに対し，主婦の約半数をしめる和服の製作割合では，注文が 64% を占めて最も多く，次いで家庭製作であり，学生，主婦共に既製品の利用は最も少なかった。

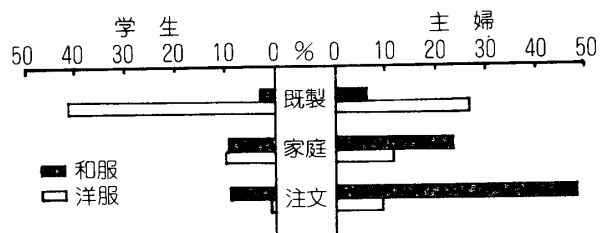


図 2 所持服和・洋の製作別比較

3) 機会別和服着用服種について

和服がどんな時に、またどのような種類のものが着用されるかを学生、主婦について調査した結果を図3に示す。学生の和服着用の機会は、正月、お盆が77%と最も多く、次いで成人式、結婚式が16%で、その他茶会等にわずかみられた。まだフォーマルな機会の少ない学生の身分では当然の事であろう。着用服種では、正月には振袖やアンサンブル、お盆には浴衣が多かった。主婦では和服を着用する機会は、葬式、正月、結婚式、入学式、卒業式の順に多く、日常着としてよりも冠婚葬祭等の行事には欠かせないものとなっている。着用服種としては、冠婚葬祭用の礼服および入学式、卒業式用の無地の準礼服及び黒羽織が多かった。

4) 和服の着装

和服の着用が日常茶飯事ではなくなった今日、和服着用時の着つけはどのようにするのか調査した結果を図4に示す。学生では日常の着つけすなわち正月に着るアンサンブル盆おどりでの浴衣でも自分で着られる者は17%と少なく、家族の手をわずらわせていることがみられる。なお、自分で着装出来る者は踊りを習っている者が大半である。さらに、儀式などの着物の着付けの場合をみると、学生では大半が美容師に頼んでいる事がみられた。主婦の場合、日常着の着つけは91%が自分で出来る事は、学生とはまったく反対の傾向を示し、和服着用の経験年数からみて当然の事であろう。儀式の場合も約半数は自分ですることが出来、あとは家族および美容師に頼んでいる。

5) 主婦における和服縫製技術

和服の製作別比較では、注文が64%と多く、次いで家庭製作が29%であったが、これらの原因を究明するためにも主婦達がどの程度の縫製技術を持っているかを調査した結果を図5-1に示す。技術所持者が78%、不所持者が22%である。二つの層をさらに高・中・

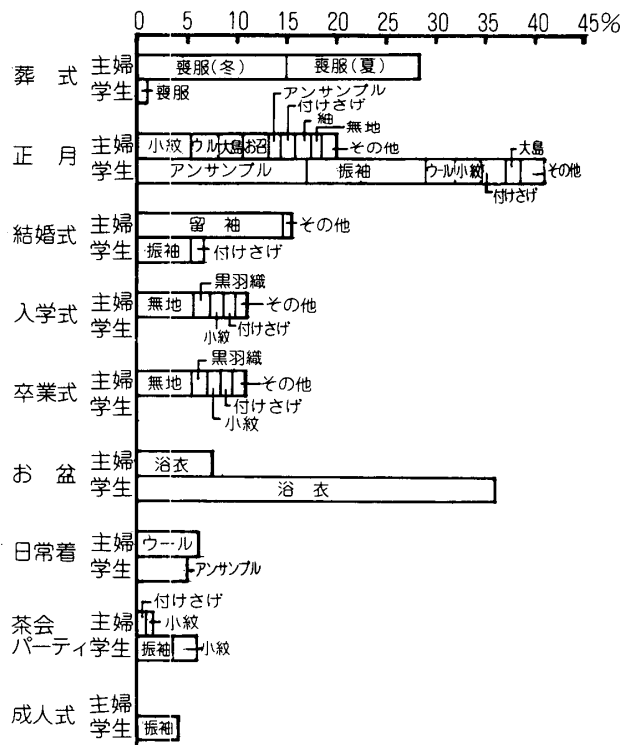


図3 機会別による着用服種

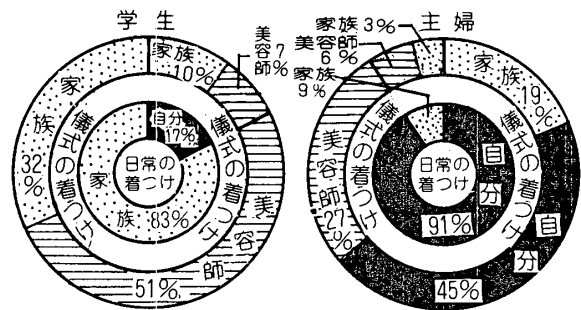


図4 和服の着つけ

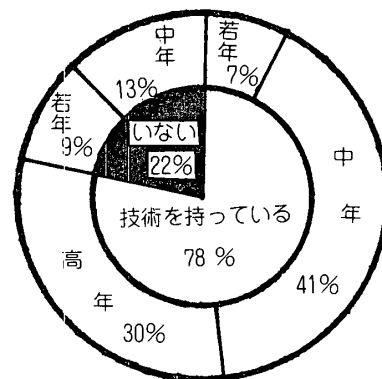


図5-1 和裁の縫製技術の割合

若年に区別すると、技術所持者の中では、中年41%、高年30%とその大半をしめ、若年は7%と低率であった。次に縫製技術の段階の調査結果を図5-2に示す。単衣及び袷長着と羽織までを縫う技術所持者が45%と最も多く、年齢層では中・高年齢がほとんどで、若年は約2%であった。若年層では単衣物縫製程度の者が6%と縫製技術所持者はごく低率である。縫製技術の高度な単衣長着から振袖、打掛及び男物袴類までをこなせるのは高年齢層がそのほとんどを占めている。

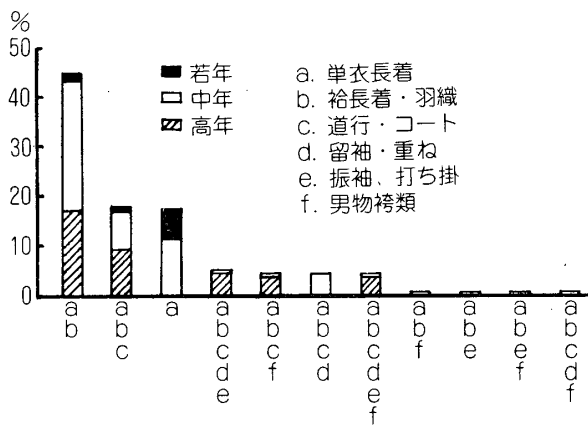


図5-2 主婦層における縫製技術の段階

(2) 既製和服の購入・選択状況

1) 和装既製品の購入種類

和装既製品の購入割合を図6に示す。学生、主婦共にたび、肌襦袢、裾よけ等の下着類が上着類を上回っている。上着類では学生は帯が30%と多く、主婦層では帯、コート類が学生に比較して多く購入されている。

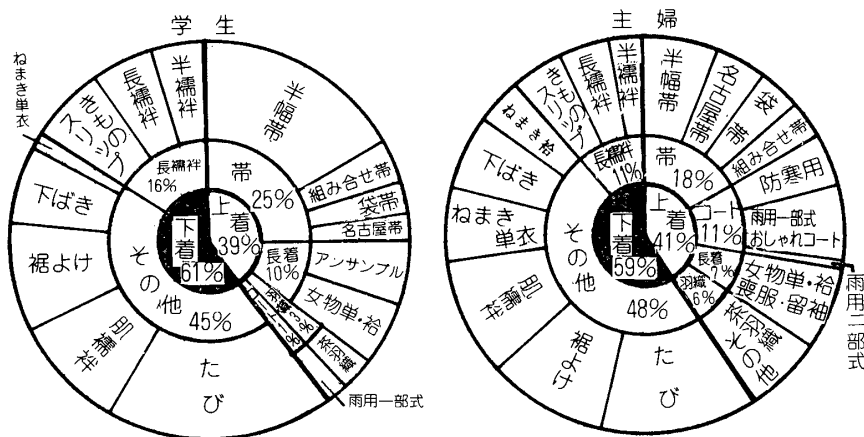


図6 和装既製品の購入種類

2) 購入場所

和装既製品の購入場所を図7に示す。学生、主婦共専門店が最も多く、次いで百貨店、行商、スーパーマーケットの順である。和服は晴着として、又は洋服と比較して高価であるとの考えからか、衝動買いはされずに信用ある呉服専門店で購入する人が多いであろう。

3) 和装既製品の購入選択基準

和装既製品の購入時における選択項目順位について項目別に荷重平均して数値換算し、

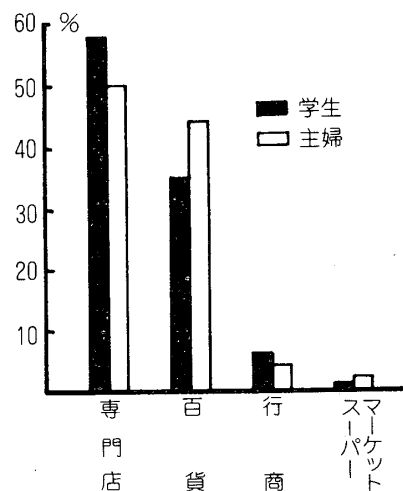


図7 和装既製品の購入場所

さらに割合を求めたものを表2に示し、学生、主婦についての比較を図8に示した。学生、主婦共に既製の利点である“必要な時すぐ着られる”が選択順位第1位となっているのは当然であると思われる。学生では第2位に“模様が気に入った”，第3位に“値段が手ごろで気に入る”と経済性よりも布、柄を優先する傾向がみられる。主婦では第2位に“値段が手ごろで気に入った”，第3位に“自分で縫う時間がない”となっており、家政をきりもりする主婦の実利性、経済性がきものの柄よりも優先することがうかがえた。次に学生と主婦の間で大きな差がみられたのは、“自分で縫う技術がない”の項目で、学生では選択順位第5位にみられるが、主婦では第7位になっている。これは、前述の主婦層の縫製技術所持者の調査で80%の者が技術を持っている結果であると考えられる。

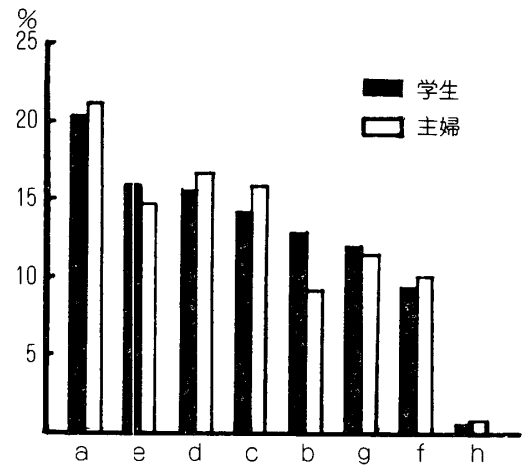


図8 既製和服選択購入順位項目間の差

表2 既製和服選択項目

層目別	順位	項目	選択項目	荷重平均値	%	順位間	順位間の差
学	1	a	必要な時すぐ着られる	973	20.3	1～2	195
	2	e	模様が気に入った	754	15.8		
	3	d	値段が手ごろで気に入る	735	15.4	2～3	19
	4	c	自分で縫う時間がない	677	14.1	3～4	18
	5	b	自分で縫う技術がない	611	12.8	4～5	66
生	6	g	デザインが気に入った	562	11.8	5～6	49
	7	f	縫製が気に入った	446	9.3	6～7	116
	8	h	その他	26	0.5	7～8	396
主	1	a	必要な時すぐ着られる	908	22.0	1～2	233
	2	d	値段が手ごろで気に入る	675	16.4		
	3	c	自分で縫う時間がない	651	15.8	2～3	24
	4	e	模様が気に入った	599	14.5	3～4	52
婦	5	g	デザインが気に入った	468	11.4	4～5	131
	6	f	縫製が気に入った	406	9.9	5～6	62
	7	b	自分で縫う技術がない	371	9.0	6～7	35
	8	h	その他	40	0.9	7～8	331

(3) 既製和服に対する意識

1) 既製和服に対するイメージ

学生および主婦層が既製の和服に対して、どのようなイメージを持っているかを調査した。結果を図9および表3に示す。両者とも、縫製についてのイメージが最も高率を示した。既製和服といえば、(A)縫製が雑でミシン縫いが多い、というイメージが真先に頭に浮ぶようである。

表3 既製和服に対するイメージ項目

項目 種類 符号	イ		メ		ジ		項		目	
	学		生		主		婦			
A	縫製	○縫製が雑である				○縫製が雑である				
		○ミシン縫				○ミシン縫が多い				
		◎縫製がよい				○衿の着物にふくろが入りやすい				
		◎きれいに仕立ててある				—				
B	寸	○体型に合わない				○体型に合わない				
		○着心地が悪い				○サイズの種類が少ない				
		◎サイズが豊富				○全体的に小さい				
		◎和服は洋服程サイズが合わなくともよい				○着心地が悪い				
	法	—				○サイズが合うか不安				
		—				○大きめに作ってある				
C	布・柄について	○他人と同じ柄になる				○好みの柄がない				
		○柄合わせが出来ていない				○人と同じものを着ることがある				
		○好みの色柄がない				○布が節約してある				
		—				○柄合わせが悪い				
		—				○表の色柄と裏とのイメージが合わない				
D	品質について	○安っぽい				○安っぽい				
		○品質が悪い				○品質が悪い				
		○買う気がしない				○高級品がない				
		—				○買う気がしない				
		—				○長もちしない				
		—				○まあまあの品である				
		—				○信用できない				
		—				○見た目が悪い				
E	手である軽	○急用の時に利用できる				○手軽に購入できる				
		○自分の好みの物が買いやすい				○急用の時利用できる				
F	値段について	○値段が安い				○値段が安い				
		○値段が高い				○高価な既製和服を買う気がしない				
G	その他	○汚れがある				○かたい感じがする				
		○下着とか付属品のイメージ				○反物から出来上ったという楽しみがない				
		○ゆたかのイメージ				○着物の大切さが軽視されている感じがする				
		—				○和服はやはり手作りのものがよいと思う				
	の	—				○自分の趣味がなくなる感じがする				
		—				○人の借物を着るような気がする				
		—				◎見た目がきれい				
		—				◎肌襦袢や裾よけは既製品の方がきれいである				
		—				◎実用的で良い				
		—				◎丸洗いが出来普段着に便利				
—				◎諸点が研究されている						

◎ …… 満足 ○ …… 不満

第2位は両者とも、(B)寸法に関係したイメージで、体型に合わない、サイズの種類が少ない、着心地が悪い等であり、主婦24%、学生約20%の出現が見られた。第3位と第4位は、学生と主婦のイメージ順位が入れかわり、学生は(C)布柄に関係した項目が第3位であるのに対し、主婦は(D)品質についてのイメージである。すなわち学生は、他人と同じ柄になる、好みの色柄がないのに対し、主婦は、安っぽい、品質が悪い、高級品がない、長もちしない、等の柄よりも品質優先イメージが高率である。第5位は、両者とも(E)手軽に購入出来る、急用の時に利用出来る、という利点をあげているが、これは和・洋既製服の最もメリットとするところであろう。しかし全体としては、これらのメリットをはるかに上回る程の不満イメージが、全項目に見られるのが現状である。

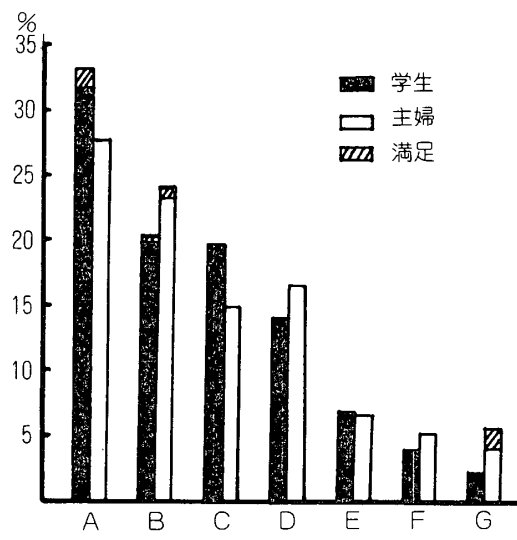


図9 既製和服に対するイメージ

2) 既製洋服に対するイメージ

既製和服に対して、既製洋服にはどのようなイメージを持っているかの調査結果を、図10および表4に示す。第1位は、(a)デザインで、色・デザインが豊富、センスがよい、自分では出来ないデザインがある、など満足度100%である。第2位は、(b)サイズが豊富、試着が出来るなど、第3位は、(c)縫製があかぬけている、型くずれしない、プリーツがしっかりしている

表4 既製洋服に対するイメージ項目

項目	イメージ項目	項目	イメージ項目	
a	デザイン	◎デザイン・色が豊富である	e	◎急を用する時便利
	デザイン	◎センスの良いデザインがある		◎簡単に手に入る
	デザイン	◎自分で出来ないむずかしいデザインがある		◎作る手間がはぶける
	デザイン	◎自分で作る時参考になる		f
b	サイズ	◎サイズが豊富	◎値段が手ごろである	
	サイズ	◎試着が出来る	○値段が高い	
	サイズ	○メーカーによりサイズがちがう	g	◎流行がみられる
	サイズ	○サイズが合にくい		○流行のものしかなく自分のデザインがさがしにくい
c	縫製	◎縫製があかぬけている	h	◎素材が豊富である
		◎型くずれしない		◎材料に個人では入手しにくいものが使用してある
		◎プリーツがしっかりしている		○洗たくするとちぢむことがある
		○裏及び付属品の縫製が雑		◎……………満足 ○……………不満
d	大量生産	◎型が出来上っているので組み合わせ等考えやすい		
		○町で同じものを着た人を見るといやだ		
		○個性がない		
		○同じものがたくさんあると着装する気をなくす		

る、など満足しているが、10%前後の者は、裏および付属品の縫製が雑であると不満をあげている。以下(d)大量生産、(e)手軽さ、(f)価格、(g)流行、(h)品質の順にみられたが、(e)手軽さのイメージ項目では、満足度100%を示し、他はわずかながら不満イメージがみられた。しかし概して既製洋服イメージは、満足度が高く、前項の和服イメージとは正反対の傾向がみられた。

3) 既製和服に対する問題点

次に既製和服購入経験者による、既製和服に対する問題点を自由記入式で記入させ、内容の類似項目はまとめて集計し、主婦、学生各々の割合を求めた結果を図11および表5に示す。学生は調査者全員のうち、約半数が購入経験がないため、わからないと答え、問題点なしは20%、問題点ありは30%である。これに対し主婦層の問題点ありは33%、なしは28%、その他は購入経験のないものである。

問題点の内容は、学生、主婦とも共通しているが、順位が多少異なっている。すなわち学生は、1位“縫製”、2位“サイズ”、3位“材質”の順であり、主婦は、1位“サイズ”、2位“縫製”、3位“材質”で、1位と2位の順位が入れかわっている点が相違している。次に表5に示す両者の既製和服に対する共通問題点について述べる。

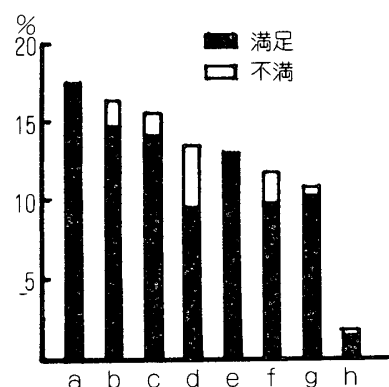


図10 既製洋服に対するイメージ

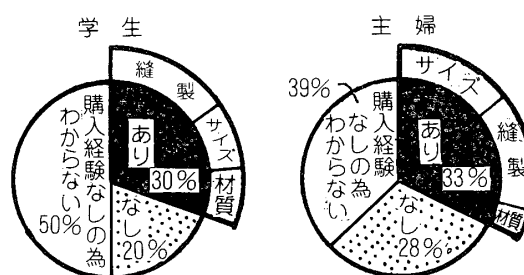


図11 既製和服に対する問題点

表5 既製和服に対する問題点及び希望内容

項目 種類	項目	
	学 生	主 婦
サイズの種類	<input type="checkbox"/> 寸法が合いにくい	<input type="checkbox"/> 身丈・袖丈が合わない
	<input type="checkbox"/> 買った後のめんどろをみてくれない	<input type="checkbox"/> くりこし寸法があわない
	—	<input type="checkbox"/> 衿、抱き幅、袖幅が合わない
	—	<input type="checkbox"/> 普段着の場合はバチ衿仕立てにしてほしい
縫製	<input type="checkbox"/> 縫製が雑である	<input type="checkbox"/> 袖付がすぐほつれる
	<input type="checkbox"/> 縫代が少なすぎる	<input type="checkbox"/> ミシン縫いが多くほどきにくい
	—	<input type="checkbox"/> 留めがしっかりしていない
材質	<input type="checkbox"/> 素材が悪い	<input type="checkbox"/> 既製のものは表地に対して裏地が悪い
	<input type="checkbox"/> 裏に悪いものが使用してある	<input type="checkbox"/> 同一柄が多く他人と同じ物を着るのがいや
	<input type="checkbox"/> 同一柄が多く個性が出ない	—

① サイズの種類が少なく体に合わない

主婦の問題点の第1は、サイズが少なく、身丈、袖丈、くりこし寸法、衿、抱幅、袖幅が体型に合わない等である。これは、主婦が既有的の長着、或いは長襦袢などに、既製和服の袖丈

身丈寸法等を合わせて購入しても、桁丈を構成する肩幅、袖幅の過不足によって、寸法が合わない場合袖口、あるいは振から幅がはみ出し、見苦しくて着用出来ないといったことである。又、くりこし寸法においても同様な事がいえる。これらは1例にすぎないが、和服着用の生活経験を重ねた主婦でなければ分らない問題点でもある。以上の諸点から、学生は和服着用の機会が少なく、寸法と体型とのかかわりを具体的なものとしてとらえていないために、問題点の第1順位に縫製を、又主婦はサイズを第1問題点としたことに妥当性があると考えられる。

② 縫製が雑である

学生は第1順位に縫製が雑であると答えているが、具体的には述べていない。主婦層は、生活経験から具体例をあげている。その主なものは、袖付けがすぐほつれる、ミシン縫が多くほどきにくい、又要所要所の留めがしっかりしていない、裕長着の仕立てにふくろが入っている等を取り上げ、既製和服は安価であるが、仕立ての細かな部分が雑であると、安かろう悪かろうの批判をしている。

③ 材質について

既製のものは、表地に対して裏地に使用されているものが悪い。又同一柄が多く個性がない。

以上の3点が、購入経験者による既製和服に対する両者の共通問題点であるが、前項1)の既製和服のイメージと全く重複する傾向が見られた。既製和服購入低率の要因の1つが、この辺にあるのではないかと考えられる。

(4) 将来の衣生活設計に関して

学生と主婦の将来の衣生活設計において、和服を持ちたいか否かにつき調査した結果を図12-1に示す。学生は99%、主婦は94%と大多数の者が和洋両式必要と答えた。

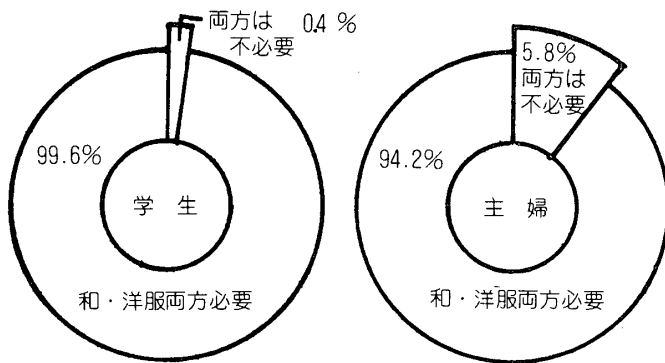


図12-1 和服・洋服の必要度

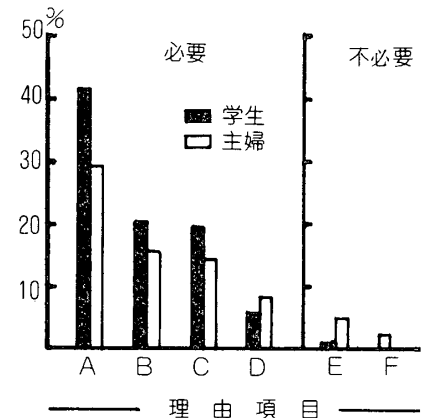


図12-2 和服・洋服の必要・不必要理由

1) 必要と思う理由

必要と思う理由の調査結果を図12-2および表6に示す。両者とも必要と思う理由の第1位は、(A)“和服は民族衣裳として格式があり、特に儀式などには正装らしくてよい”が最も多く、次に(B)“和服は日本の風土に合い、日本人の生活様式に適していて、伝統文化を残す意味においても着用したいと思う”“第3位が(C)“和服を着用すると気分が改まり、情緒豊かに、くつろいだ雰囲気を楽しむことができる”等であり、精神的、審美的な面を重視した必要性をあげている。

表 6 和服を必要・不必要とする理由

項目 符号	理 由 項 目
A	和服は民族衣装として格式があり特に儀式などには正装らしくてよい
B	和服は日本風土の気候に合い日本人の生活様式に適していて伝統文化を残す意味においても着用したいと思う
C	和服を着用すると気分が改まり情緒豊かにくつろいだ雰囲気を楽しむことができる
D	和服は体型の変化にも良く適応し型式の流行がなく着装の仕方によっていかようにも変化をもたせて楽しむことが可能である
E	和服と洋服の両方の併用は不経済である
F	和服の着こなしはむづかしい

2) 不必要と思う理由

和服を全く不必要という者はごくわずかであるが、その理由の主なものは、(E) “和服と洋服の両方の併用は不経済である”、又(F) “和服の着こなしはむづかしい” であって、生活経験者である主婦層にみられた。

要 約

以上の調査結果をまとめると、今回の調査の範囲内では次のとおりである。

- (1) 和・洋服の所持率については、学生は洋服が83%、和服が17%と和服が少なく、主婦はそれぞれ55%、45%である。これらの和服の着用機会は、学生では正月、お盆、成人式等であり、主婦では冠婚葬祭、正月、入学式、卒業式等である。また、和服を自分で着装できる者は、学生では約17%と極めて少ないが、主婦では日常着については約90%、礼服についても約半数を占める。
- (2) 将来の衣生活設計については、学生、主婦層とも96%以上の者が和服を取り入れ、和・洋両式の衣生活をしてゆきたいと答えた。この結果から、和服は今後も長く伝統的な民族衣裳として日本人に愛され続けるものと思われる。
- (3) 和・洋服の所持服の製作別割合では、学生、主婦共に洋服では既製品が多く、和服では注文が最も多く、既製はごく低率であった。家族の衣生活を担当する主婦の和服の縫製技術所持者は約80%であり、特に中・高年層に高度な縫製技術があったが、家庭製作より注文する割合が多くみられた。これは余暇時間に趣味的な事を行ったり、あるいは社会に出て生産的活動をする人が多くなってきたことによるのではないかと考えられる。
- (4) 和装既製品の購入状況では、両者共に、たび、長襦袢、裾よけ等の下着類が多く、上着類では注文が多いことがうかがえる。和装既製品の選択重視項目順位では、学生、主婦共に“必要な時すぐ着られる”という利点を第1位にあげており、次に“価格が手ごろ”、“時間の節約”をあげている。また、これらの購入場所は専門店が最も多く利用され、日常着ではなく晴着としての和服は、衝動買いせず信用ある専門店で購入し、仕立てもそこで頼むという状態である。
- (5) 既製和服に対する学生および主婦の意識差は、両者の生活経験により多少異なり、学生は概念的な思考が多いが、主婦は、より具体的な生活的思考をしている。しかし共通して不満意識が多く、大体次の3点にしばられた。

- 1) サイズの種類が少なく体に合いにくい。
- 2) ミシン縫いが多く、縫製が雑である。
- 3) 材質面では表地に対して裏地が悪く、同一柄のものが多い。

しかし、以上のイメージはそのまま購入経験者による、既製和服の問題点へと直結している傾向が見られた。既製和服購入低率の一要因が、このあたりにあるのではないかと考えられる。かつて、洋服における既製服が、戦前→戦中→戦後の歴史を経て、安かろう、悪かろうの「つるし」の時代から、現代の「ファッション」の時代に到着し、量・質共に飛躍的な発展をし、消費者イメージも今や、外出着、日常着共に満足度の大きいものに変化して来た。一方、和服の既製服が伸びないのは、和服の構造そのものが、洋服的な量産体系にのりにくいという基本的な問題があるが、最近になって、大手の化繊企業がシステム化の研究に着手し、システム方式を開発した。これにより、化繊製品については、今までの既製服の機械縫製にみられた、パツカリング発生率を極限までに押える特殊ミシン使用により、品質向上を期待することが出来るようになった。また、W&W性と、仕立上りの品質が明らかに優れているようである。しかし、これもサイズ面、材質面等については未だ完全なものではなく、今後の研究の余地がある。このように最近では、企業も消費者ニーズをよく研究している現状であるが、消費者もこれまでのような「上手なお買物」的な消極的なものだけでなく、消費者と企業とのすれちがいを解消する消費者のための生産へとリードしていく、より積極的姿勢が望まれる時代に来ている。

短大の被服教育においてもこれに答える為には、これまで以上に高い知識や、問題解決への能力養成の必要があろう。今後は既製和服の問題点とされた、サイズ、および縫製面における検討を重ねてゆきたいと考えている。

本研究にあたり、調査に御協力下さった主婦の方々及び本学被服コースの学生に感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 岩松マス：ホームライフ(6), 79~82, 講談社 (1963)
- 2) 田中道一：生活科学シリーズ No. 48, 46~53, 生活科学研究会 (1975)
- 3) 中沢一太：衣生活研究 Vol.4 No. 7, 2~8, 関西衣生活研究会 (1977)